

工芸

応募点数	53点	招待作品	18点
入賞点数	7点	展示点数	63点
入選点数	38点	◎は移動展出品作品	

(総評) 令和最初の年の県展。工芸部門ではどんな表現と出会うのか期待しながら松江に入りました。本年度の工芸部門の一般応募作品は53点。そのうち入選作は45点、受賞したのは7点となりました。昨年的一般応募作品が55点でしたから、数的にはほぼ同規模。受賞した作品のジャンルは、ガラスと人形、陶芸、そして漆芸でした。とくに漆芸ジャンルの受賞は久々とのことで、しかも蒔絵と螺鈿という異なる技法による作品であったということは、この地域の工芸力の懐の深さを物語る受賞であったと言えるでしょう。茶の湯の伝統を背景にした茶碗作品の多さ、人形や民藝陶の秀作の多さなど、この地域ならではの出品状況はこれまで同様でした。

ただ、全体を通して見て感じたのは、入選作品はいずれも、完成度についてはほぼ問題ないレベルに達しているものの、作品としてのインパクトが弱い、或いは「表現への思い」が小さくまとまり過ぎているように感じられるものが多い、ということでした。僭越ながら換言すれば、自分自身の表現を新たに構築しようとする強い意欲があまり感じられなかったのです。もちろん工芸には、器なら器の、着物なら着物の「用に基づくフレーム」というものがあり、個の突出は不要という考え方もあります。しかし、新しい時代に向けて、新しいフレームを創出しようという挑戦を、この工芸の分野でも見てみたいと感じているのは私だけではないはずです。

そんななか、今回、新人賞を受賞された筒描や、これまで見られなかった簪などの出品もありました。こういった方々の作品が今後どのように進化していくのか、それが他のジャンルにどう影響していくのかなど、新しい展開もあり得ると感じました。これからの鳥根県の県展に期待したいと思います。

(文責 三浦 努／鳥取県立博物館 主幹学芸員)

知事賞 ◎

ガラス花器「深奥」

かわなべかおり (出雲市)

昨年度の銅賞受賞作と同様、宙吹き技法で大らかに造形されたガラス花器である。タイトルのとおり、水底の奥の方へと見る者を誘う求心力を感じさせると同時に、透明感のあるブルーは爽やかさも醸し出す、実に魅力的な作品に仕上がっている。上からのぞき込むと深い青色の帯が所々で揺らいでいるように見える「ガラス片鑄込み」の表現は、花器の底から上を見上げれば水面で戯れる白い光のようにも見え、作品の見所をいや増している。さりげなく鑄込まれた金箔が表現する流水紋もまた効果的だ。見込みにたっぷりと水を溜め、一輪の花でも浮かべてみたくなる、用途性にも開かれた秀作である。

(文責 三浦 努／鳥取県立博物館 主幹学芸員)

金 賞 ②

はるかぜ
春風

おむらまちこ (出雲市)
小 村 眞知子

待ちわびた何かとの再会を、心から嬉しく感じる瞬間がある。この女性も今ここで、しかも全身でそれを味わっているのだろう。優しく伸びた左手と、踵を上げた右足、そして柔らかな笑みをたたえた目と口元の表現は、作者の意図のもと有機的に結びついている。「春」の訪れに控えめながらも心躍らす女性の内面が、人形作品として上手く結実している。身にまとうワンピースの色合いも表現意図とよくマッチしている。細部の仕上げも丁寧で好感が持て、作者の人柄までも感じさせる秀作として評価したい。
(文責 三浦 努/鳥取県立博物館 主幹学芸員)

銀 賞 ②

つき はぎまきえ
月=萩蒔絵

うるし ぼら よし ゆき (安来市)
漆 原 彬 之

まな板のような長方形の角皿で、漆器ではあまり見られない器である。方形の台に端が反った横長の上板が付く。全体を黒漆で塗り、器面には月光に萩が咲き乱れ、一匹の鈴虫が配される。やや欠けた月は銀蒔絵で、一方萩は花を金蒔絵とし、葉は緑の漆で厚く塗り葉先には金蒔絵を散らして変化を見せる。また鈴虫も細かな蒔絵で表現されるが、細部に正確さを欠くのが残念である。

月に秋草の画題は、古くより日本の工芸に用いられ身近な意匠であり、それだけに確かな写実力と漆工技法が求められる。
(文責 藤間 寛)

銀 賞 ②

まん だら もんそめつけおおぼち
曼荼羅紋染付大鉢

あら おく み (大田市)
荒 尾 久 美

作者の地元産する石見白土は、染付にも適した物である。土から生み出した還元焼成の中から全体に出てくる御本手(ごほんで)も美しさの一つである。またよく見ればひっそりと金彩も全体に散りばめているのが、この作品の引き出されている所だ。

かつて柳宗悦の書生でもあり、赤絵の名手であった鈴木繁男氏は島根県に何回も訪問して、石見白土の美しさは、磁州窯にも匹敵すると言った事がある。

精密な曼荼羅紋も、長い経験から見事な模様が出来上がっている。ロクロの生き生きした鉢も染付と合っている。この作者のこれからの成長が楽しみである。

(文責 多々納 真)

銅賞 ④

めんとりてつようへんかき
面取鉄窯変花器やま だ まさ ひこ
山 田 正 彦 (松江市)

伸びやかにひかれた花器を八面に面取りし、グラデーションの美しい作品である。

口造りも丁寧に仕上げされていて、作品全体を引き締めて好感のもてる作品で、上部の白色の釉調にも工夫があり、良いアクセントになっている。

収縮の大きな粘土を薄くひくと、どうしても焼き上がりのボディのラインに歪みが出てしまう。そのラインの歪みがなくなるともっと良い作品になったと思う。

毎年様々な作品に挑戦されている作者なので来年の作品にも期待したい。

(文責 内田 和秀)

銅賞 ④

ら でん ふ み ぼ こ
螺鈿文箱た だ まさ ゆき
多 田 眞 幸 (益田市)

まず、きらびやかな螺鈿の装飾に目を奪われる作品。螺鈿は貝殻の内側の真珠層を切り出し、薄く板状にした素材を貼る技法である。螺鈿に対する作者の技術力の高さと熱意が伝わる。一方で、引き出し内部の仕上げの荒さや、作者考案の器の構造に由来するものか、引き出しの抜きにくさは難点で、非常に惜しい。次回はその点を改良するか、螺鈿を生かした別の形での作品での出品で、更なる上位を狙っていただきたい。

(文責 石村 稔)

銅賞 ④

はいゆうぬのめかくざら
灰釉布目角皿ほら やま まさ み
螺 山 勝 實 (浜田市)

作者の灰釉とすぐわかる作である。四方の切り口も、作者ならではの永年の作陶技術。静かな造りの中に、繊細さと、力強さを感じます。裏を観ると、ほんの少し四足が強すぎるのではと思いながら、この皿の上にどんな世界が広がるのか、そして、作品と一体になるのか、楽しみがふくらむ作品です。益々のご活躍を……。

(文責 福郷 徹)

入 選

題 名	氏 名	備 考
朽葉釉双耳壺	大 坂 幹 裕 (雲南市)	
スズキ	三 好 宣 年 (松江市)	
硝子花器～彩～	川 辺 雅 規 (出雲市)	
④ 黄金釉茶碗	郡 司 位 秀 (松江市)	島根工芸連盟賞
陽光	松 本 輪加子 (松江市)	
初春	前 田 二三代 (松江市)	
春雨物語刻字3曲屏風	高 橋 成 和 (松江市)	
④ 日出づる国	長 田 匡 央 (出雲市)	島根工芸連盟新人賞

題名	氏名	備考
泥刷毛目緑釉茶碗	江村 一雨 (松江市)	
灰釉大壺	江村 一雨 (松江市)	
型染タペストリー 私の神楽—大蛇—	神田 立 (松江市)	
紙塑和紙貼 和み	本常 信代 (松江市)	
守破離	川谷 真由美 (出雲市)	
定年退職	大草 章代 (出雲市)	
鉢	鹿島 浩二 (松江市)	
鉢	鹿島 浩二 (松江市)	
萌え渡る	鳥谷 幸代 (松江市)	
布地張格子文皿	大谷 江一 (出雲市)	
薔薇	吉山 郁代 (隠岐の島町)	
抹茶茶碗 (伊羅保)	森脇 凱人 (松江市)	
水指 (焼締)	森脇 凱人 (松江市)	
輪線研出蒔絵	漆原 彬之 (安来市)	
茶碗	森山 晴夫 (出雲市)	
象嵌花器	森山 晴夫 (出雲市)	
茶碗	和田 守茂 (出雲市)	
⑩ うららか	上野 幸美 (出雲市)	島根工芸連盟賞
ルリ釉鉢	嘉本 慎吾 (松江市)	
蠟抜中皿	越野 良一 (松江市)	
⑩ 敷紙文様組皿	越野 良一 (松江市)	島根工芸連盟賞
⑩ 掛分しのぎ鉢	小糠 弘昭 (松江市)	島根工芸連盟賞
抹茶碗	藤井 弘一 (松江市)	
焼締 (夕焼け)	岡 義雄 (松江市)	
来待石粉シーサー	松下 純子 (出雲市)	
新三彩流水紋花器	西村 仁伸 (松江市)	
⑩ 甘鯛海遊	福間 達也 (出雲市)	島根工芸連盟賞
⑩ 蛙耳付花入	江戸端 実 (大田市)	
⑩ 黄瀬戸津田かぶ大皿	江戸端 実 (大田市)	
⑩ 茶盃ささ目雪	嘉戸 昇柏 (江津市)	

招待

題名	氏名	備考
出雲焼水指	長岡 空郷 (松江市)	
鉄釉椿文鉢	柳 楽勝重 (出雲市)	
⑩ 沈泥彩緑釉水指	犬山 卓也 (出雲市)	
スリップウェア—長角皿5客	福間 琇士 (松江市)	
⑩ 木綿手紡絵絣着物「華の香」	木下 恵理香 (出雲市)	
⑩ 型絵染帯	黒川 裕子 (江津市)	
⑩ 年男硯 (子)	福郷 徹 (益田市)	
杉造衝立	藤原 正 (出雲市)	

	題 名	氏 名	備 考
	ほら紹織菱紹生絹着物「野に陽はさして」	松 浦 弘 美 (松江市)	
	布張漆絵盆「松江三景」	石 村 稔 (松江市)	
⑩	縹縷幾何文茶盃	内 田 和 秀 (松江市)	
⑩	桑曲手付栴蓐盆	渡 部 良 和 (雲南市)	
⑩	櫛造拭漆木目沈金香合	濱 田 幸 介 (松江市)	
⑩	鈞窯鉢	荒 尾 浩 之 (大田市)	
	行灯～月～	深 田 学 (雲南市)	
⑩	紙塑和紙貼霜野	吾 郷 江美子 (出雲市)	
	省胎七宝 bowl	松 本 三千子 (松江市)	
	桑縁神代杉桐風炉先	正 木 潤 (出雲市)	